



# 児童養護のあり方に関する社会学研究

[キーワード: 児童養護、地域医療・福祉、医療倫理]

准教授 氏名 土屋敦

## <研究の概要>

私はこれまで主に、生殖技術をめぐる生命倫理研究、研究倫理に関する調査研究、児童養護施設・乳児院・里親委託などの社会養護に関する歴史研究および調査研究を行ってきた。以下では、私の主要な研究課題である「児童養護のあり方に関する社会学研究」に関する概略をまとめる。上記課題に関する主要な研究は、以下の3点をめぐるものである。

### ①児童養護施設の子ども養育親に関する歴史社会学研究

### ②乳児院、児童養護施設、ファミリーホームなどの施設養護に関するフィールド研究

### ③戦災孤児の方々のライフヒストリー研究

①では、主に戦後から1980年代までの児童養護施設の系譜を、施設に「保護されるべき子ども」の問題機制的枠組みの歴史社会学の視座からまとめたものであり、土屋(2014, 2016a, 2016b, 2017b)などの研究蓄積がある。

また②に関しては、主に徳島県内を中心としたフィールドワーク調査を行っており、県内の乳児院やファミリーホーム、児童養護施設の関連機関の協力の下、調査研究を行っている。またコースの専門科目「地域調査実習」でも同様の調査を下に教育プログラムを組んでいる。

また③に関しては、第二次大戦下の戦災などの影響下に戦災孤児となった方々に対するロングインタビューから、彼ら／彼女たちのライフヒストリーを聴き取る作業を行っている。同研究の中では、戦後の社会的養護に関する制度史と当事者の語りを突き合わせながら、戦後史を彼ら／彼女たちの語りから問い直す作業を行っている。

## <主要研究業績> (MS Pゴシック・12ポイント)

・土屋敦2014『はじき出された子どもたち——社会的養護児童と「家庭」概念の歴史社会学』勁草書房

・相澤真一・土屋敦・小山裕・開田奈穂美・元森絵里子2016a『子どもと貧困の戦後史』pp.51-74. 青弓社.

・野辺陽子・松木洋人・日比野由利・和泉広恵・土屋敦2016b『〈ハイブリッドな親子〉の社会学:血縁・家族へのこだわりを解きほぐす』青弓社

・土屋敦・八田太一・藤田みさお監訳2017a『混合研究法の基礎——社会・行動科学の量的・質的アプローチの統合』西村書店 (Charles Teddlie, Abbas Tashakkori, 2008, Foundations of Mixed Methods Research Sage Publications)

・土屋敦2017b『『保護されるべき子ども』と親権制限問題の一系譜——児童養護運動としての『子どもの人権を守るために集会』(1968—77年)』『子ども社会研究』23号 子ども社会学会 pp.113-131

## <地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

・社会的養護に関する施設、里親、児童相談所等の連携に関する地域調査研究

## 専門分野 : 福祉社会学、医療社会学、生命倫理学

E-mail: tsuchiya.atsushi@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-9308

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/277353/profile-ja.html>

